

特集

CRT 時代の直腸癌手術 最善の戦略は何か

直腸癌の外科治療においては、局所再発をいかに回避するかが重要な課題であり、海外では術前化学放射線療法を用いた TME が行われている。一方、わが国では直腸癌に対しては側方郭清が広く行われ、進行下部直腸癌に対しては側方郭清が標準術式となっている。

しかし、近年はわが国でも術前化学放射線療法が積極的に導入されており、直腸癌治療に術前化学放射線療法を導入する際には、側方郭清と術前化学放射線療法の両療法をどのように位置づけるかが重要な問題となっている。また、腫瘍の縮小効果や側方郭清の適応縮小によって腹腔鏡下手術の適応を拡大するため術前化学放射線療法が導入されている可能性もある。このように、近年のわが国における術前化学放射線療法は新たな局面を迎えている。

本特集では、こうした時代的背景も含めて、現在のわが国における術前化学放射線療法と直腸癌手術について解説していただいた。